

Hypertrophic Lichen Planus の 2 例

おお 大 ふじ 藤 さとし 聡

キーワード：Hypertrophic Lichen Planus, 肝疾患, 薬疹

はじめに

Hypertrophic Lichen Planus (HLP) は下腿、足関節に好発する扁平苔癬の異型である。高齢者に多く、角質増殖して隆起しかゆみが強いことが特徴である。病理像では通常の扁平苔癬がもつ特徴とともに表皮肥厚が特徴的である。今回 HLP の 2 例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例 1

症例：73歳，男性

主訴：両側手背と下腿の皮疹

家族歴：なし

既往歴：十二指腸癌・甲状腺機能低下症・アルコール性肝硬変・肝細胞癌

現病歴：およそ 5 ヶ月前より両側の手背と下肢に痒みを伴う発疹があった。発疹は次第に隆起してきた。ランソプラゾール スピロラクトン ウルソデオキシコール酸 ゾルピデム酒石酸塩 シアナミド パンクレリパーゼ T4 水和物を服用していた。

初診時現症：両側の手背と下腿から足背に長径 6

cm までの類楕円形あるいは多角形の角化性扁平結節が多発していた。発疹は強いかゆみを伴っていた (図 1)。結節に周囲は不正形の色素斑が散見された。

病理組織型的所見：角層は小範囲に錯角化のある過角化で、顆粒層の肥厚があった。表皮突起は鋸歯状変化を示していた。表皮下層を中心に Civatte bodies が散見された。真皮浅層に帯状のリンパ球浸潤があった。少量のリンパ球が表皮内へ浸潤していた (図 2)。

治療および経過：当初はフェキサソフェナジン塩酸塩ならびにケトチフェンフマル酸塩を内服し、クロベタゾールプロピオン酸エステルを外用したが



図 1 症例 1 の臨床像

右下腿に類楕円形あるいは多角形の角化性扁平結節がある。結節の周囲には不正形の色素斑が散見される。

Satoshi OFUJI

雲南市立病院皮膚科

連絡先：〒699-1223 雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院皮膚科

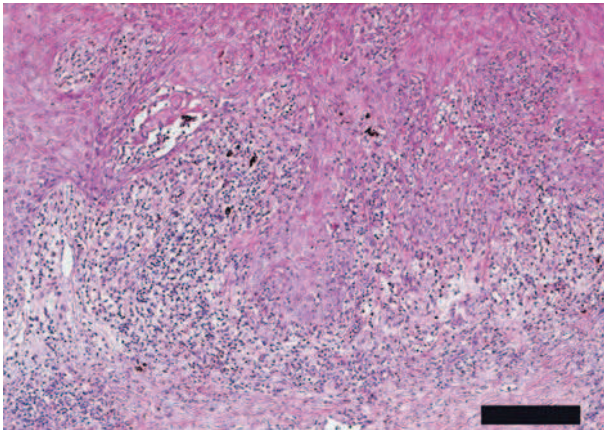


図2 症例1の組織像

表皮突起は鋸歯状変化を示していた。表皮内の下層を中心に Civatte bodies が散見された。真皮浅層に帯状のリンパ球浸潤があった。少数のリンパ球が表皮内へ浸潤していた。

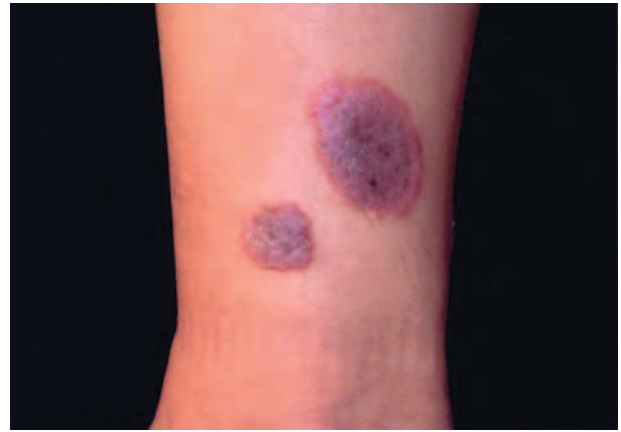


図3 症例2の臨床像

右下腿に結節がある。結節は紅暈を伴っている。

発疹は不変でかゆみは止まらなかった。治療開始1週間後から内服外用治療を継続しながら UVB 照射を開始した。初回は UVB 0.02 J を発疹部に照射し、ご本人の通院都合を踏まえたうえでおよそ1週間おきに光線治療をおこなった。最大照射量は UVB 0.03 J, 照射期間はおよそ6か月、積算照射量は UVB 0.59 J であった。間欠的にクロベタゾールプロピオン酸エステル¹⁾の密封療法をかゆみが強い部分に行ったが1週間以上つづけることはなかった。治療開始よりおよそ6か月経過したところで症状軽快し治療を終了した。

診断：アルコール性肝硬変と肝細胞癌を合併した HLP と診断した。

症 例 2

症例：63歳，男性

主訴：両側下腿の皮疹

家族歴：母親が胆管癌

既往歴：糖尿病・C型肝炎・肝硬変

現病歴：およそ1ヶ月前より下肢に痒みを伴う発疹あり。初診時，両側下腿に雀卵大類円形の角化

性紅斑が散見された。湿疹あるいは炎症性角化症と診断してステロイド剤外用を開始したところ、1ヶ月後には病変は隆起し増数した。ラクツロース、フロセミド、スピロラクトン、グリメペリド、アカルボースを服用していた。

生検時現症：両側下腿に長径3cmまでの類円形で扁平な結節が散見された。結節中央は角化を伴う3mm前後の扁平で紫がかった暗赤色の顆粒が集簇して局面を形成したものであった。この扁平な結節性病変は紅暈を伴っていた(図3)。

病理組織型的所見：HE染色で検討した。角質は過角化を示し、顆粒層の肥厚があった。表皮突起の鋸葉状変化があった(図4)。表皮基底細胞の液状変性と真皮乳頭の浮腫があり真皮表皮境界部には Civatte bodies とメラノファージがあった。真皮上層にはリンパ球が数多く浸潤し、少数の多核白血球も見られた。

治療および経過：初診時はベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル²⁾を外用したが皮疹はさらに隆起したので皮膚性生検して HLP と診断。外用剤をクロベタゾールプロピオン酸エステルへ

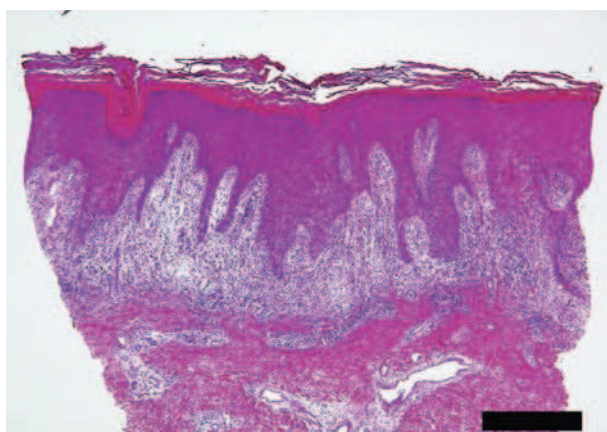


図4 症例2の組織像

過角化で顆粒層の肥厚がある。表皮突起の鋸歯状変化がある。表皮基底細胞の液状変性と真皮乳頭の浮腫がある。

変更した。変更後1週間で痒みは軽快し、皮疹は平坦となった。さらに角化は軽減、紅色調は退色し紅暈は消失した。その後、再燃による受診はない。なお、皮疹が隆起してきた時期に肝細胞癌を指摘されている。

診断：慢性C型肝炎，肝硬変と肝細胞癌を併発したHLPと診断した。

考 察

HLPは扁平苔癬の異型である。扁平苔癬は皮膚と粘膜に生じる疾患であり比較的好くみられるがその発症機序は不明である。発症機序の仮説として表皮向性T細胞が何らかの表皮抗原を認識して活性化し攻撃している可能性が指摘されている。HLPは下腿や足関節に生じることが多い。鱗屑をつける紫色または色素沈着の強い苔癬化した隆起性局面を形成し、掻痒が強い傾向がある。病変は一般的に対称性で慢性化しやすい¹⁾。隆起した扁平苔癬を示す呼称として鈍性扁平苔癬²⁾疣状扁平苔癬^{2,3)}肥大型扁平苔癬⁴⁾HLP⁵⁾がある。隆起した扁平苔癬は時間経過とともに発疹の大きさを変

化させる⁵⁾。症例2の経過にこのことがうかがわれる。このことは隆起した扁平苔癬の的確な呼称は時期によって異なる場合があるとみなされた。変化する可能性がある理学所見をとらえた呼称よりも特徴的な病理学的所見をとらえたもののほうがぞまじいように思われた。医学中央雑誌で過去5年間の報告を呼称別に検索すると鈍性扁平苔癬として報告されたものは0例、疣状扁平苔癬は1例、肥大型扁平苔癬は1例、HLPは2例であった。本例では成書⁵⁾やEmadiらの報告⁶⁾をふまえてHLPとした。扁平苔癬の組織所見として不規則の表皮肥厚と表突起の鋸歯状変化、乳頭・乳頭下層の帯状のリンパ球や組織球の浸潤、Civatte bodies, 色素失調がある²⁾。肥厚した表皮細胞は炎症細胞によってアポトーシスが誘導されてCivatte bodiesを形成し長期的には委縮にむかうのが一般的とされる⁷⁾。HLPが表皮肥厚を機序として、激烈なかゆみに対する搔破が表皮肥厚を誘導するのではないかとする意見³⁾やHLPはCivatte bodiesが相対的に少ないとする報告⁵⁾から類推される表皮細胞寿命の延長に伴った表皮肥厚が可能性として挙げられる。本例においてはCivatte bodies減少していなかったため搔破によって表皮が肥厚し、その結果、特徴的な外見を呈したのではないかと考えた。診断であるが扁平苔癬型薬疹は鑑別にあがる。経験した2例は共通して肝硬変を併発しており、スピロラクトンを内服していた。スピロラクトンは扁平苔癬型薬疹の報告が多い⁸⁾。2例ともに肝硬変にともなう体液バランス異常を補正する必要があった。このためスピロラクトンを休薬せずに局所治療のみを先行させた。結果的に発疹は軽快し発疹の再燃はなかった。このため扁平苔癬型薬疹ではなくHLPとした。しかしながら正確なところはわか

らない。症例数として少ないので HLP 型薬疹の存在については今後の検討課題である。両者ともに肝硬変と肝細胞癌を合併していた点も注目される。高度の肝機能障害が HLP の発症に関与している可能性はあると考えた。また HLP は有棘細胞癌の発生母地となりうることが報告されてい

る⁹⁾。これは扁平苔癬が発癌母地となることを継承した性質とみなされるが、HLP が慢性的に経過しやすいことを踏まえると留意すべき性質と考えた。HLP は比較的まれな扁平苔癬の異型であり、慢性に経過しかゆみを伴うことが多い。2例の治療を経験したので報告した。

文 献

- 1) Fox BJ, Odom RB: Papulosquamous disease: A review. *J Am Acad Dermatol*, 12: 597-624, 1985
- 2) 上野賢一: 皮膚科学第7版, 金芳堂, 2002, 312
- 3) 目黒洋明, 駄馬中公美, 池田光徳他: 血液透析患者に出現した著明な色素沈着を伴った疣状扁平苔癬. *西日皮膚*. 67: 98-101, 2005
- 4) 中尾将治, 田中千洋, 石井貴之他: 肥大型扁平苔癬の1例. *日皮会誌*. 122: 769, 2012
- 5) Champion RH, Burton JL, Burns DA et al.: *Rook/Wilkinson/Ebling Textbook of Dermatology Sixth edition*. Blackwell Science, 1998, 1899-1926
- 6) Emadi SN, Akhavan-Mogaddam J, Yousefi M, et al.: Extensive hypertrophic lichen plans in an HIV positive patient. *Dermatol Online J*, 16: 8 2010
- 7) 飯塚一: 扁平苔癬: 最新皮膚科学大系 第7巻, 中山書店, 2002, 239-242
- 8) 福田英三, 福田英嗣: 薬疹情報 第16版, 「薬疹情報」事務局, 2015, 151
- 9) 宇都宮亮, 岡崎秀規, 宮崎さおり他: Hypertrophic Lichen Planus に生じた有棘細胞癌の1例. *西日皮膚*. 77: 575-578, 2015